

第100回 県病ふれあいコンサート
弘前大学医学部管弦楽団
初夏の県病コンサート

平成29年6月24日(土) 3pm～
青森県立中央病院 外来ホール

出演：弘前大学医学部管弦楽団

指揮：馬場正之（県病医療顧問）



プログラム

1. J.C. バッハ: シンフォニア 二長調 より **アレグロとアンダンテ**
2. J.S. バッハ/グノー: **アベマリア**
3. 早川正昭: バロック風「日本の四季」より「夏」
(「我は海の子」「雨が降る」「海」による)
4. J.C. バッハ: シンフォニア 二長調 より **ロンド**

弘前大学医学部管弦楽団

1994年に弘大医学部学生と教職員によって結成された室内オーケストラ。弘大医学部創立50周年記念式典での職員と医学部学生によるバッハ第2管弦楽組曲の祝賀演奏(ソロ・フルート:馬場正之)が関係者に感銘を与えたことから、歴代医学部長の支援のもとに弘大医学部内の常設団体として活動を開始。教養部で古典音楽演奏論を講じていた馬場正之神経内科助教授(当時)を常任指揮者とし、時代背景を重視したオーセンティックな演奏スタイルを目指す。創立以来20余年、毎週水曜夕方に医学部コミュニケーションセンターで練習を重ね、弘大附属病院での四季折々のコンサート、医学部関連行事や当地開催の種々の医学会での演奏など毎年数~10数回の演奏活動を続けている。これまで取り上げた主な曲は、ブランデンブルク協奏曲、管弦楽組曲、チェンバロ協奏曲、ヴァイオリン協奏曲、フーガの技法などのバッハ作品多数、ヘンデル、ヴィヴァルディ、コレルリ、テレマン、パーセル、パッヘルベル、ラモーなどのバロック管弦楽曲やコンチェルトのほか、最近ではモーツァルトやハイドンの古典交響曲に力を入れている。

馬場正之 指揮

医学生時代より吉田雅夫氏、多田逸郎氏らにフルートとリコーダーの手ほどきを受け、堀栄蔵氏に鍵盤楽器の古典調律法を師事。1970年より弘前室内楽集団のフルート兼リコーダー奏者として活動。79年~83年英国政府医学研究審議会研究員としてロンドン大学神経研究所に赴任、同時にロンドン市ギルドホール芸大でN.ハッデン、P.ピケット各氏にバロック・リコーダーを、J.ソラム氏にバロック・フルートを、W.バーグマン、J.ホロウェイ各氏に古典室内楽を師事。J-Pランパル、Aニコレ、F.ブリュッヘン各氏のマスタークラスを受講。83年帰国、弘大医学部・附属病院で神経内科を担当するほか、教養部で教育学部音楽科の今井民子教授(バロックヴァイオリン)と古楽演奏論を開講。85年より島口和子氏主宰の弘前バッハアンサンブルに参加、30年に及ぶバッハのミサ曲・カンタータ連続演奏でフルートとリコーダーソロを担当。東京紀尾井ホールでの演奏が「懐の深いフルート」(「音楽の友」誌)と評されたほか、ウィーン、ザルツブルク、フランクフルト、パリ、コペンハーゲン、ライプチヒ、ニューヨークなど、欧米十数都市で短調ミサ曲やマニフィカートなどのフルート・ソロを担当。95年から弘大医管弦楽団を率い、100回を超えるコンサートを指揮。現在、青森県立中央病院医療顧問。